

いろは親水公園右岸(こもれびのこみち)

NPO法人エコシティ志木事務局長

青木 明雄



こもれびのこみちのあずまやから池を見る

いろは親水公園の右岸には、「こもれびのこみち」の斜面林があります。武蔵野台地のへりにあり、広さは、7,123 平方メートルです。西側の公園入口から入ると、斜面林の大きな木に覆われ、木漏れ日がさす細いこみちと脇を流れる水路が長く続いています。このこみちが右岸ゾーンの名称にもなっている「こもれびのこみち」です。入口付近の小さな広場には、レンガのが敷き詰められて、真ん中に丸みのある大きな石が立ててあります。あまり日が当たらず湿っぽく、敷かれたレンガにはコケが生えています。大きな竹が生えており、敷かれたレンガを下から押し上げ、でこぼこになってしまっています。

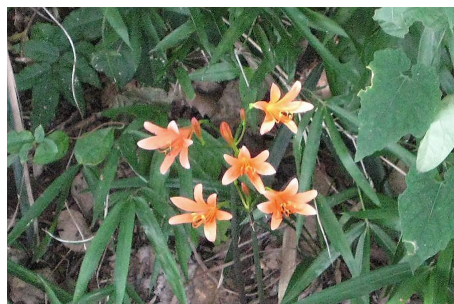
この広場にはサザンカがあり、花の少ないこの時期にピンクの花を咲かせています。また、2本のハクモクレンがあり、早春に真っ白い大きな花が咲き、公園に、真っ先に春を告げます。

こみちを 150 メートル程行くと、池に出ます。池の脇には、あずまやがあり、ここを訪れる人の休憩場所となっています。ここが、この公園の中

心となっていて、新河岸川の土手に上がることができます。また反対側には、階段がありこの斜面の上の通路に登ることができます。池の脇にも遊歩道が伸びていて、池の端まで歩くことができます。本来の遊歩道ではありませんが、その先、池から流れでる水路の脇を通り、湧水が湧き出ているところまで、歩くことができます。湧き出た水は、更に先まで流れて、土手を潜り、新河岸川へと注いでいます。

この辺りには、ツリフネソウが自生していて、夏にはピンク色の花が咲き、緑に覆われた斜面を彩ります。ツリフネソウは、市内では、ここでしか見ることができない貴重な存在です。

土手を潜り抜けた水は、小石が溜まった水路を流れ、小さいながら岩場や沢を流れる水路の雰囲気を出しています。



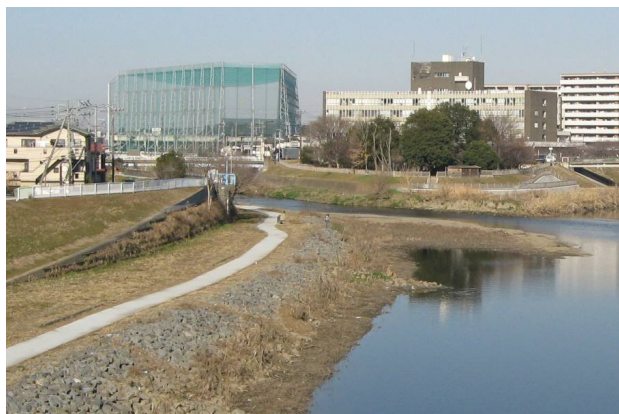
キツネノカミソリ



ツリフネソウ



公園入口

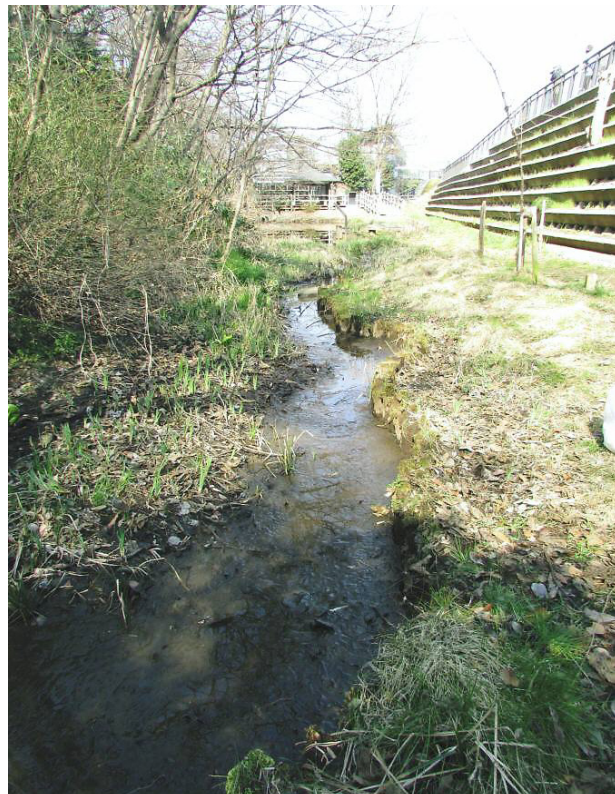


いろは親水公園下流から志木市役所を望む

この池からの水路には、いろいろなトンボがやってきて卵を産んでいきます。オニヤンマもよくやってきます。水路に溜まった落ち葉や土の掻き出しを行った時にサワガニも見つけました。この水路は、小さな生き物にとっても貴重な自然なのです。

あずまやの土手から住宅があるところまで、斜面林は200m以上続いています。大きな木が生い茂っていて、夏は、林床にまで日が当たりません。落葉樹は、冬には葉が落ちるので、地面に日が当たり、春には野草が生え、花を咲かせます。この斜面林には常緑樹も多く、そのままでは、一年中日が当たらず、野草もあまり生えてきません。シュロやアオキなどの常緑樹の伐採や刈り取りを続けてきたところ、最近では、キツネノカミソリが増えてきました。夏にはオレンジのきれいな花があちこちに見られるようになりました。

「こもれびのこみち」の斜面林は、比較的急なこともあり、斜面の中を歩く遊歩道はありません。池から遊歩道の階段を上った台地には、敷島神社との間に長いこみちがあります。西の入り口横から階段を登り、敷島神社の裏を通り、マンションの先まで200メートル続いています。ウッドチップが敷き詰められた歩きやすいこみちになっています。その先は、舗装道路となり、斜面側には、フェ



湧水が流れる斜面下

ンスが張られています。この斜面林の中は、一般の人が入れないことと、池があり、高い木が沢山あることから、鳥の声が途切れることがありません。トカゲやヘビはもちろん大きなヒキガエルや昆虫などいろいろな生き物を見かけます。運が良ければカワセミにも会えます。

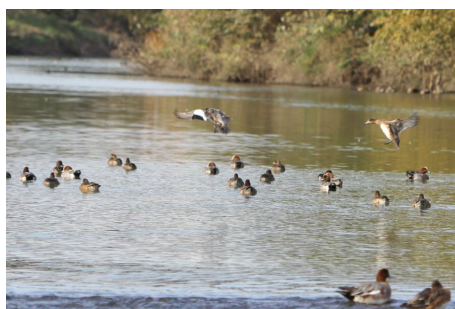
また、春には、ヤマザクラやミズキの花がとてもきれいです。そしてこのこみちには、シダ類の植物も多く生えています。これだけのシダを見ることができるところは、市内には他にありません。

さて、河川敷ですが、ここは、緩やかな流れの新河岸川に、流れの速い柳瀬川が合流しています。勢いのある流れに乗って運ばれてきた石が、急に流れが遅くなるため、右岸には、たくさんの砂利が溜まり、広い河川敷となっています。

水辺再生100プランで右岸ゾーンの河川敷内に舗装された遊歩道が整備され、花壇も作られました。毎年、増水したときには、浸水していますが、冬には、多くの水鳥がやってきます。この辺りでは、たくさん見ることができます。合流点手前の引又河岸の復元場所から、富士下橋の先のせせらぎ水路までの約300メートルが右岸ゾーンとして整備されています。



斜面林



新河岸川の水鳥